

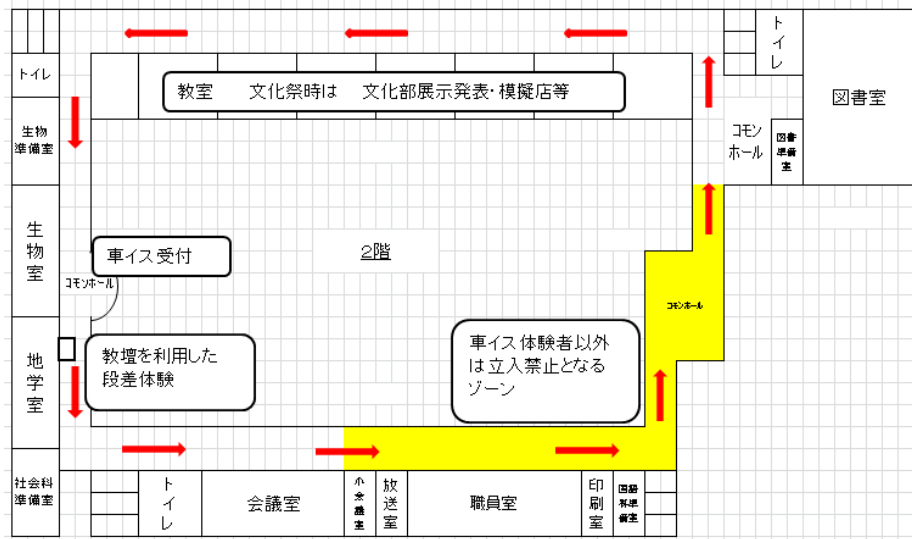
平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 宮城県 】

1 実践テーマ	【 II 】
2 実施対象者	宮城県利府高等学校 保健委員会 担当10数名 (体験者は生徒および一般来場者 計80名程度)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( ) ② 行事名 ( 文化祭 ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	多くの方々に車イスを実際に体験してもらうことを通して、障がい者への関心をもつ契機としてもらう。また、補助員の必要性や補助には知識・技術も必要であることを啓蒙する活動の一助とする。
5 取組内容	文化祭(2017.9.2 土) 文化祭の一般公開日に車イス2台を貸し出し、多くの方に車イスの自走と補助を体験してもらった。本校の校舎2階は段差もなく周回できる構造になっているため、1～2周体験してもらった。



受付を一カ所設置し、保健委員会が当番制で受付を担当した。(写真1・2)

(写真1)



受付を設置

(写真2)



当番制で受付を担当

車イス体験の様子

(写真3)



(写真4)



周回コースの一部(職員室前の直線廊下)は、一般客は立入禁止であったため、ゆっくり体験できたようでした。

(写真5)



模擬店等の合間に体験する生徒も多かった。

(写真6)



自走がいかに大変かも体験してもらいました。

## 6 主な成果

大変盛況で、予想以上に多くの方々に体験してもらうことができた。(写真7)

文化祭時は廊下も大変混雑しており、その中を車イスでぶつからずに通過することがいかに大変であることかを実感してもらえた。(写真8) また、このような活動を通して、周囲の人々が協力して道をゆずったり補助してあげる必要があることもPRできたと考える。

(写真7)



文化祭の一般見学者の多くの方々にも体験してもらえた。

(写真8)



人混みの中を通るのは思った以上に大変であることを体験した。

体験者にアンケートはとらなかったが、次のような感想を聞くことができた。

- 自走は大変つかれた。
- 補助者がいると安心できた。
- スピードが出ると怖かった。  
(面白がって補助者がスピードを出したから)
- 人混みの中は道をゆずってもらわないと通過が困難であった。

7実践において工夫した点  
(事業の特色)

地元の利府町はオリンピックサッカー会場となるグランディ21を擁しており、ボランティア要員などが期待されている。本校スポーツ科学では障がい者スポーツ等についても学習しており、オリンピック・パラリンピックに関わることもテーマとして学びやすく、文化祭においても展示発表(写真9)などをしてきた。しかし、普通科をふくめた取り組みがなかなかできなかった。文化祭というイベントを利用し、普通科の生徒を中心に企画させながら、学校全体でオリ・パラ教育を考えさせていくきっかけとして実施した。

(写真9)



スポーツ科学科の展示発表では、ゴールボールやフロアバレーについて紹介した。

準備段階で、以下のような生徒たちからの意見を取り入れた。

保健委員会で車イスの補助法について簡単にまとめたポスター(模造紙・写真10)を受付場所に掲示し、受付時に簡単な説明をした後に体験してもらうようにした。また、周回コースの廊下の床にビニールテープ等で矢印「→」や文字「車イスコース」などの表記をし、体験者が迷わないようにした。

計画段階では、2階と3階をコースとして途中で階段を入れたり、スロープや段差(写真11)のあるコースを体験してもらうことも検討した。しかし、補助員に十分な知識や技能がない(授業等で学んだ経験がない)ことや教員が常に付き添えないことから、安全面に配慮し、平坦なコースの周回とした。段差体験は、車イスに人を乗せていないときのみとした。

(写真10)



車イスの補助法について説明したポスター

(写真11)



段差体験は、安全面に配慮し、車イスに乗っていないときのみ試してもらった。

<p>8 主な課題等</p>	<p>初めての試みであったこともあり、気軽に参加してもらうことを最優先にしたため、事後に参加者へのアンケート等はあえて実施しなかった。多くの方々に体験してもらえたことから、この点については功を奏したといえるが、効果を検証する上でも体験後に簡易なアンケートを実施してもよかった。</p> <p>計画面では、車イスが確保できることがわかったのが本事業の予算確定後の7月であったことから、文化祭への参加としての取り組みが遅くなってしまった。(本校の文化祭は夏休み明け直後であり、参加団体の多くは7月中旬に企画が確定している。)そのため、校内でどの参加団体の企画とするのかが不明確になってしまった。最終的には保健委員会の企画としてもらったが、十分な準備ができず、PR活動等が不十分であった。</p> <p>また、文化祭当日はスポーツ科学科の展示発表もあり、内容が一部重なる部分があったにも関わらずそれぞれ単独で実施してしまったので、次年度以降はうまく連携できる方法を模索したい。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>盛況であったことから、課題をふまえながら来年度も実施したい。ただし、継続的に実施していく上で、担当してくれる先生や生徒たちに負担感がない形を模索していきたい。</p> <p>実質的なボランティアの育成の観点から、体験だけではなく車イスの補助法について家庭科の授業と連動させていきたい。</p>